

2016



J・A・C



平成 28 年 1 月 発行

No. 99

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市 泉菅野  
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX018(823)2708

発行者 今野 昌雄

編集者 鈴木 裕子

## 秋の里山山行

### 紅葉の房住山へ

鎌田 倫夫

十月三十一日(土)、集合場所の五城目町道の駅「悠紀の里」を、参加者十四名が四台の乗用車に分乗し、目的地の房住山を目指して午前八時に出発した。心配だった雨は降ってはないが気温が低い。

八時四十五分、滝ノ上登山口から出発。登山口には新しい案内板が取り付けられており、登山道も良く整備されていた。私は、下山口の井戸下田(いどげた)へ車を回送し、そこから登り、皆に合流する。

房住山は、奈良時代に天台宗によって山岳仏教の道場として開山されたと云われ、江戸時代に建立された三十三観音の石仏が登山道沿いに奉納され、そのまま残っている。

井戸下田登山口から逆回りをして、皆と合流する。滝ノ上からの歩道はアツブダウンが続く、急登から緩やかになって天下森への分岐に着く。参加者の中には房住山へは何度も登っているが、天下森へは誰もが初めてとのこと、これを機会に向かうことにした。

足場の不安定で滑りやすい歩道を二十分程で、七番の仏像がある天下森に着く。すぐ側に落雷によって焼け落ちた巨木があり、その凄まじさを感じた。滝ノ上コースに戻り、今野支部長から配られたバナナを御馳走になりながら小休止した。

これより少し登ると井戸下田コースとの分岐に出る。そこを通過して杉の

巨木を眺めながら緩やかな尾根道が続く、急坂の台倉ノ坂に着く。

急登の通称「ばば落とし」コースと階段状の一般コースとに分かれる。当然、ばば落としコース初体験の希望者が数名いた。

台倉ノ坂と巻き道一般コースの合流した場所は、十番、十一番の石仏がある広場になっており、小休止する。

時折陽も射すほどになり、このまま天候が回復してくればと思いながら、アツブダウンを繰り返して、用水ポンプのある尾根道を歩き、十一時十五分、

二十一番の石仏、二等三角点のある山頂に到着。

山頂には三階建ての山小屋があり、一階が水洗トイレ、二階が展望台、そして三階が蛍光灯の付いた休憩室になっている。

曇りではあるが、男鹿方面まで幽かに眺望出来た。

多少風があり、気温も低いのでこの山小屋で少し早目の昼食にした。

いつものように皆それぞれ持ち寄りの御馳走が振舞われ、賑やかだった。

下山は、井戸下田分岐まで同じ道を戻り、自然観察教育林に指定されている原生林を通り、房住神社経由で整備された駐車場のある登山口に、一時三十分到着した。

ここから上小阿仁村へ移動し、村の観光地にもなっている「こぶ杉」を見学した。こちらも樹高五十メートル位

の太い杉が何本もあり、初めて訪れた参加者は驚いていた。「こぶ杉」からの下山中、電も降ったりしたが、全員無事に日程を終えることが出来、ここで散会することになった。

今野支部長の挨拶の後、次回行事予定の太平山歩道整備等の案内や、事務連絡の後、解散した。

参加者 十四名

福田光子 今野昌雄 柳田勇悦

若月 寿 鈴木裕子 鎌田倫夫

佐藤 博 石川祐子 安藤金栄

佐々木長秀、佐々木悦子

澤田石一夫

会員外

鈴木茂夫 鈴木るみ子



# 公益的事業 太平山歩道整備

安藤 金栄

今年も太平山歩道整備の時期が来た。私事になるが、前夜持病である腰痛がまた疼きだした。あまりの痛さに盤石な湿布を貼ってもらうが、痛いのは痛い。神様とはちょうどこんな時期に現れるものなのか。今までの人生でそんなにいい思いや、悪いこともしないと思うのに。

それでも朝が来た。十一月七日(土)二手ノ又駐車場に十四名の参加者が集合。天気はまずまず、下山まで雨の降らない事を願う。今野支部長の元氣な挨拶とミーティングで始まり、八時十分出発。

作業道具を背負ってのいきなりの登りはきつい。山々の紅葉は終えようとしていて、清々しく、まもなくの冬の訪れを肌で感ずる。九時二十分、金山滝コースへの分岐点着。お地藏さんに合掌して、透けて見える山々を横目にさらに進む。落ち葉が登山道を埋め尽くし、赤や黄色のふかふかの絨毯。カサカサと音を立て、登山靴から伝わる感触は心地よい。

九時四十分、女人堂着。残念ながら下界は霧で見えない。十時、前岳(七七四m)着。昨年取りつけた標識とベンチがある。厳寒期を乗り越えた姿に愛おしさを感じ、腰かけたくなるのも人情かな。

前方からチェーンソーのエンジン音が山々に反響し、力強く聞こえて来る。ブナの倒木が数本登山道を塞いでいる

ので、歩きやすいように凹字にカットしているはず。中岳直下の三角井戸着。今回の歩道整備の重点箇所である、この三角井戸上部より作業開始。カーブ地点で特に笹が覆い被さっている。草刈り機で刈りながら、中岳着。中岳山頂周辺の刈り払いが参加者全員で賑やかに行われ、登山者も眺望が良くなると喜んで、手を貸して手伝ってくれた。

記念写真を撮り、刈り払われて明るくなった中岳神社の前で、輪になって昼食。このひと時が楽しい。美味しいコーヒーをご馳走になり下山。



中岳(951.7m)の2等三角点の前で



刈り払い作業中

下山時、堀井副支部長が、三角井戸の傍に苔むして埋もれていた三体の石仏を掘り起した。なんか心が温まる。



石仏と三角井戸

十四時四十五分、駐車場着。それぞれ持参のチェーンソー、草刈り機、鋸等を取め、無事に解散。前岳・中岳は市街から近く、多くの登山者が楽しむ山なので、お役に立っていると思うと嬉しい。

参加者

- 佐々木民秀 今野昌雄 柳田勇悦
- 鈴木裕子 堀井弘 鎌田倫夫
- 佐藤博 石川祐子 安藤金栄
- 藤田正義 佐藤英賢
- 会員外 高山秀雄 石塚稔 鈴木茂男
- 高橋克美 鈴木のみ子
- 小野銀逸

◎高橋守会員

旭日双光章を受賞

高橋守会員は、二〇一五年秋の叙勲で、スポーツ振興功勞として「旭日双光章」を受賞致しました。心からお祝い申し上げます。

◎田口善信会員

八月二十六日、太郎平から黒部五郎岳を往復し、北アルプス南部・北部主脈全山縦走を終了。八月四日、砥森山に登り、分県カイド「岩手県の山」新旧版の全山に登頂。「秋田県の山」は登頂済。

・会員で目標の山々の登頂を終えた方は事務局までお知らせ下さい。

◎川島会員の搜索について

- 十一月二十三日午後一時から、イヤタカで打ち合わせ。
- ・今野支部長から今年度の搜索状況報告と今後の対応等について協議
- ・五月十七日 部名垂沢
- ・七月八日 部名垂沢・朝日岳山頂部
- ・十月二十六日 部名垂沢最上流部・朝日沢

搜索参加者 今野昌雄 大村龍一

佐藤隆 加藤節二

出席者 今野昌雄 佐々木民秀

佐々木長秀 鈴木裕子

北海道・東北地区集会和、北海道支部創立五十周年  
記念式典に参加  
今野昌雄

第三十一回北海道・東北地区集会は九月十二日(土)十三日(日)、札幌市(定山溪ビューホテル)で開催された。

東北各支部から十七名と地元北海道支部とで四十一名の集会であった。

九月十二日、午後一時から受付、二時三十分から支部長会議。各県の近況報告あり、来年は秋田支部の担当が正式に決定した。

地区集会では、各支部とも会員増を目指している旨の報告があった。

北海道支部は、五十周年記念事業としての「オホーツク分水嶺踏査」を完遂し、さらに「オホーツク圏地球環境生態系等調査」の継続登山の一つであるロシヤ連邦沿海地方シホテアリ二山脈での生態系観察登山を見事成功させたとの報告もあった。

記念講演は「北海道の高山植物と高山生態系について」北海道大学准教授の工藤岳氏がオーブラチヤナ(極東ロシア)と北海道の植生が類似していることをわかりやすく講演してくれた。

九月十三日、昨夜からの大雨で、親睦登山(札幌岳・喜茂別岳)は中止となり、八時三十分解散式が行われた。

秋田支部の四名は定山溪ダム下流園地から展望台に登り、湖を見た後、余市のマッサンのウイスキー工場を見学。その後、札幌市内に移動し、傘をさして北大植物園を見学。フエリーで一泊、帰秋した。

参加者 今野昌雄 福田光子  
鈴木裕子 大船武彦

十二月十二日、北海道支部設立五十周年記念式典が札幌市内のロイトン札幌で開催。

十五時開式、北海道支部長西山泰正氏の式辞、来賓祝辞は本会会長の小林政志氏と北海道山岳連盟会長の小野倫夫氏。祝電披露の後、五十年のあゆみ報告として支部創設と活動再開の頃、中央分水嶺踏査、オホーツク分水嶺踏査、五十周年記念誌に見る支部活動や、この一年を振り返ってを、歴代の支部長等が報告された。

十六時三十分から祝宴、支部長挨拶、鏡開きと続き、お祝いの言葉は本会前会長森武昭氏や出席した、青森、東海、秋田の各支部長、東海副支部長、北海道勤労者山岳連盟会長、札幌山岳連盟会長、北海道ガイド協会会長、山のトイレを考える会代表と続いた。

新入会員・会友紹介、祝舞「還暦祝い唄」、スピーチが行われ、プレゼン卜抽選会の後、お開きとなった。この後、希望者の二次会、三次会も行われた。

北海道支部五十周年に出席し、支部の歴史をはじめ、支部各役員・会員、会友の情熱や対応に感動し、ルームの図書室の本にも感心した。

また、札幌市民に道や地下鉄・会場等を訪ねた時、よそから訪れる客に慣れているためか、どなたも親切であった。各種国際大会や観光地として発展している札幌(北海道)の財産であり誇りに違いないと思った。

出席者 今野昌雄 福田光子

平成二十七年 支部合同会議報告  
石川祐子

平成二十七年九月二十六日(土)二十七日(日)、東京・四ツ谷「主婦会館 プラザエフ」で開催。

今野支部長、石川会計担当出席。小林会長の挨拶は、コミュニケーションを密にし、会の運営をスムーズにしていけるのが今回の趣旨である。現在、JACは会員、財政ともに減少し困難な状況にある。支部の活性化とユースクラブの強化を進めたい。「活発な活動を行っている所に人は集まってくる」この言葉は印象に残った。

支部の活性化については、会員の高齢化など、各支部の悩みや理由を考慮してきたが、そろそろ小さな行動へ動くことを実行に移してほしい。そのためにも、支部を支援する方策としてブロック単位で連携をとる「ブロック割」が提案され承認された。東北・北海道地区は①北海道ブロック②東北ブロックとして活動を進める。資材・人材のブロックを通じた調達や、アドバイスや支援を受けるなど、今はより良い支部活動へのくくりや手段という考えである。

本会としても、各支部の独自性を尊重しながら支援の方法を考えている。入会推薦制度等の改革として、いわゆる町の山岳会や大学山岳部などの機能が低下してきており、代わりにモンベル会員が五十万人を超えるなど、会に所属しない1〜2人歩きの増加が目立つ。日本山岳会は「敷居が高い」などの声もあり、本会でも推薦制度の見直しを検討課題に挙

がっている。

財政については、平成二十七年は新永年会員からも晩餐会の会費を戴くこと、また、支部交付金を一人二五〇〇円から二三〇〇円に減額変更も考えてもらいたい。「聖域なき経費削減」という言葉も出てくるほどの財政赤字は支部の活動にどんな影響を及ぼすのだろうか。会友や支部独自の会員制も日本山岳会の正式な制度として取り込み、会の裾野を広げようという考え方も出てきている。

山の日の取り組みは、この日を「山に登る日」ということではなく、もっと広い意味で山を理解してもらうために、何が出来るか、JACとしての特徴、人材を生かしながら山の団体と手をつなぎ、その地域の生活の中で活動を見つけていってほしい。その中で、「山の日」は意味あるものになる。また、メディア、ネット活動を考えると、これからはもっと味方につけていってほしい。

参加しての感想は、支部の活性化、山の日に関する取組、財政への考え方等本会と支部間の考え方でなく、支部間同士の考え方の温度差を感じた。また、どうしても財政難と会員減が結びついてしまうが、山を好きの人には仲間と共に安全登山を目指してもらいたい、そのための受け皿として、JACがもっとつつきやすい会になればいいのかなとも考えた初めての会議参加だった。

(会報「山」八四五号参照)

日本山岳会

創立百十周年

記念式典開催

十二月五日午後五時から、東京都新宿・京王プラザホテル本館5Fコンコードボールルームに於いて、皇太子殿下をお迎えして開催された。参加会員五六六名。(会報「山」八四七号参照) 小林会長の挨拶に続き、物故会員に黙祷。谷垣全国山の日協議会会長、八木原日本山岳協会会長からのご祝詞をいただいた後、来賓の紹介があった。秩父の宮記念山岳賞の授与、百十周年記念事業報告等行われ、式典は無事に終了した。

引き続きの祝賀晩餐会は、恒例の鏡開き、新永年会員(出席者九名)や新入会員の紹介(出席者四七名)、特に高校二年生の新入会会員の挨拶には大きな拍手があった。続いて、各支部の紹介と続き、楽しい一時をすごした。

出席者 佐々木民秀 福田光子

佐藤和志 今野昌雄  
鈴木裕子 長岡幸則

支部長会議開催

記念式典に先立ち、京王プラザホテル「高尾」で午前十時三十分から開催。二十八年度事業計画・予算策定について。また、会員制度、会員サービス等に関する意見が交換された。

出席者 今野昌雄

晩餐会懇親山行に参加して

佐々木 民秀

百十周年祝賀晩餐会の翌日に行われた山行委員会主催の懇親山行は、富士五湖の精進湖から本栖湖の外輪を成すパノラマ台(一三二八m)を経て中之倉峠に向け、北は秋田・岩手支部、南は東九州からの参加者八十四名、バス二台で新宿西口・工学院大学前から午前八時に出発した。

昨年の懇親山行と同様に晴天となり、車窓から富士山の雄姿を眺めつつ、精進湖の他手合浜駐車場へ。

午前十時過ぎ出発し、雑木林の緩やかな登りを落ち葉を踏んで分岐に至り、ここから左に少し進んで明るく広いパノラマ台に一時間三十分で着いた。山名の通り見事な展望地で、目の前に青木ヶ原が広がり、富士山が一段と美しく望まれた。

方位盤もあり、南アルプスや三ツ峠方面等の山座同定を楽しむ。昼食後、全員で記念撮影し、十二時三十分過ぎ出発。分岐に戻り、急坂を下ってから緩い尾根を大丸のピークを越して中之倉峠へ進むが、雑木林の連続で眺望は不可。峠の分岐から少し進んで、千円札と新渡戸五千円札の裏に印刷されている富士山の展望地に一時間程で着いた。

狭い展望地で、まずは本栖湖に姿を映して聳える富士山を背景に、千円札をかざして記念撮影。分岐に戻り、中之倉峠登山口に三十分程で下り、午後二時半頃全員無事に下山した。このコースは、パノラマ台

の眺望が抜群で人気が高く、家族連れやグループ(東京新ハイキングクラブ、他)登山で賑わっていた。

また、今回は八十才代の会員が数名、東北からは岩手・宮城支部から各一名、秋田支部から二名の計四名のみで寂しいかぎりであった。

古銭収集家を自負する私は、以前に五百円札に印刷されている富士山の雁ヶ腹摺山にも登っており、今度は有意義な登山となった。企画された山行委員会に心から感謝申し上げたい。尚、翌日、富士山の北東に対峙する御正体山(一六八二m)に快晴のもとに登り、夜遅く帰秋した。

参加者 佐々木民秀 鈴木裕子



パノラマ台展望地で集合写真

会務報告

◎東北・北海道地区集会  
担当者会議開催

十二月十六日、午後一時から泉コミセンで開催。

二十八年七月三〇日(日)三十一日に森吉山で開催する第三十二回東北・北海道地区集会について協議。  
・会報「山」に掲載し、広く参加者を募集する。  
・支部会員も含め八十名程を予定。  
・募集の締め切り日。  
・講演会、民族芸能の内容等。  
・役割分担等について協議を行った。

出席者 今野昌雄 三浦真六

鈴木裕子 堀井弘 鎌田倫夫  
佐藤博 安藤金栄 佐々木長秀

旬報

大山健助氏

病氣療養中のところ、平成二十七年八月三十日逝去されました。(享年八十三才)

大山会員には、支部の会計担当や監事として支部の運営に長年にわたりご尽力を頂きました。謹んでお悔やみ申し上げます。支部からは、甲花をお供え致しました。

